日本遺産 Japan Heritage

Vol. 7

「鎮守府（ちんじゅふ） 横須賀・呉・佐世保・舞鶴
～日本近代化の躍動を体感できるまち～」
旧佐世保無線電信所(針尾（はりお）送信所)施設(佐世保市)

日本が近代国家として歩み始めた明治期、横須賀・呉・佐世保・舞鶴の4つの都市は、旧日本海軍の根拠地「鎮守府」が置かれたことにより、当時の最先端の工業技術や設備が投入されるなどして、その後、急速に発展を遂げました。

旧佐世保無線電信所施設は、4年の歳月と総工費155万円(現在の約250億円に相当)をかけて、1922年に完成しました。敷地内の3基の無線塔は、高さ約136mの煙突状の鉄筋コンクリート造りで、正三角形に配置されています。その中心に建設された鉄筋コンクリート造りの電信室のほか、油庫（ゆこ）などの当時の建物も残されています。

1941年12月8日の太平洋戦争の開戦を命じた暗号文「ニイタカヤマノボレ1208」は、この無線塔でも中継・発信されたといわれています。

近年の調査により、建設の歴史的背景とともに土木技術や無線技術の面からも高く評価されています。2013年5月には国が日本の技術発展を象徴する近代化遺産として重要文化財(建造物)に指定しました。

問合せ 佐世保市観光課 ☎0956-24-1111　日本遺産 鎮守府 検索

日本遺産とは
地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産（Japan Heritage）」として文化庁が認定するもの

3号塔の内部。1号塔や電信室（いずれも外観のみ）なども見学可能
※団体(20名以上)の見学は、針尾無線塔保存会(0956-58-2718)へ事前連絡が必要

電信室

平成30年7月豪雨や北海道胆振（いぶり）東部地震などにより、大きな被害がもたらされました。
犠牲者の皆さまに深く哀悼の意を表しますとともに呉市、舞鶴市をはじめ、各地において被災された皆さまに心からお見舞いを申し上げます。